

和歌山県の魅力

自分時間が充実、理想のワークライフバランス!

1. 充実した暮らし

都会と比べて、和歌山県は物価も家賃も安いので、趣味や遊びに使えるお金が充実します。若い時から、自由に使えるお金で、プライベート時間を充実させませんか?

	和歌山	全国	東京	大阪
①大学卒初任給	223,600円	225,400円	230,600円	227,600円
②25~29歳の平均月給	239,100円	231,110円	265,200円	258,400円
③家賃平均月額	41,094円	55,609円	80,918円	55,614円
④消費者物価地域差指数	99.4	100.0	104.5	99.8

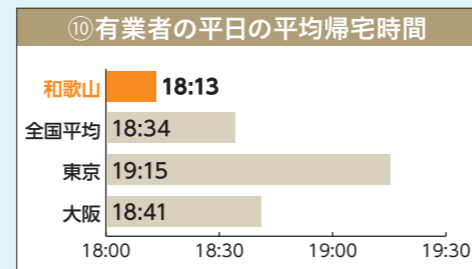
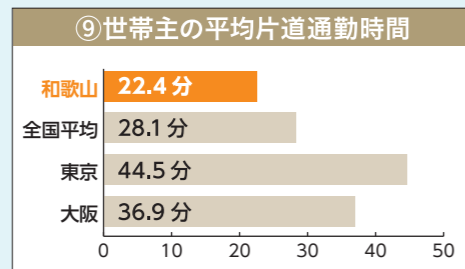
2. マイホームのある暮らし

和歌山県では、比較的安価で大きい家を建てることができます。大きな家でゆったりとした生活を過ごす人生を考えてみませんか?

	和歌山	全国	東京	大阪
⑤1㎡あたり住宅地平均価格	35,700円	53,372円	389,100円	152,200円
⑥土地付住宅建築費	3,972万円	4,456万円	6,105万円	4,881万円
⑦持ち家の延べ面積	124.4㎡	119.9㎡	93.3㎡	101.8㎡
⑧持ち家比率	73.0%	61.2%	45.0%	54.7%

3. 自分時間のある暮らし

和歌山県では、通勤時間が短く、帰宅時間も早いので、自分や家族との時間を多く持つことができます。早く帰ってワークライフバランスを充実させませんか?



出典 ①②R3賃金構造基本統計調査【企業規模10人以上・所定内給与額】(厚生労働省) ③⑦⑧⑨H30住宅・土地統計調査(総務省統計局) ④R3小売物価統計調査(総務省統計局) ⑤R4都道府県地価調査(国土交通省) ⑥R3フラット35利用者調査(住宅金融支援機構) ⑩R3社会生活基本調査(総務省統計局)



和歌山県職員採用情報



公式SNSでも情報発信中

採用説明会の開催情報、職種紹介などの情報をタイムリーにお届けします。



Facebook



X(旧Twitter)



Instagram

上記QRコードより最新の情報を確認いただけます。試験案内、申し込み方法、仕事内容の詳しい紹介、先輩職員のインタビューなど、情報が盛り沢山なので、ぜひチェックしてください。

問い合わせ先 和歌山県人事委員会事務局 TEL 073-441-3763 FAX 073-433-4085



県庁職場ガイド

和歌山県庁に訪問し、現役の県職員と直接お話いただくことができます。県の施策、仕事の魅力などをお伝えし、皆さんの県の仕事などに関する疑問や質問にもお答えします。

申込方法 上記QRコードよりお申し込みください。

対象者 和歌山県職員をめざしている方

受付期間 随時受け付けています。

訪問日時 申込み受付後、日程調整の上、メール等により連絡します。(土・日・祝日及び12/29~1/3を除く)

…………… **問い合わせ先** ……………

和歌山県総務部 人事課 人材育成班
TEL 073-441-2138 FAX 073-422-9312
✉ e0102001@pref.wakayama.lg.jp

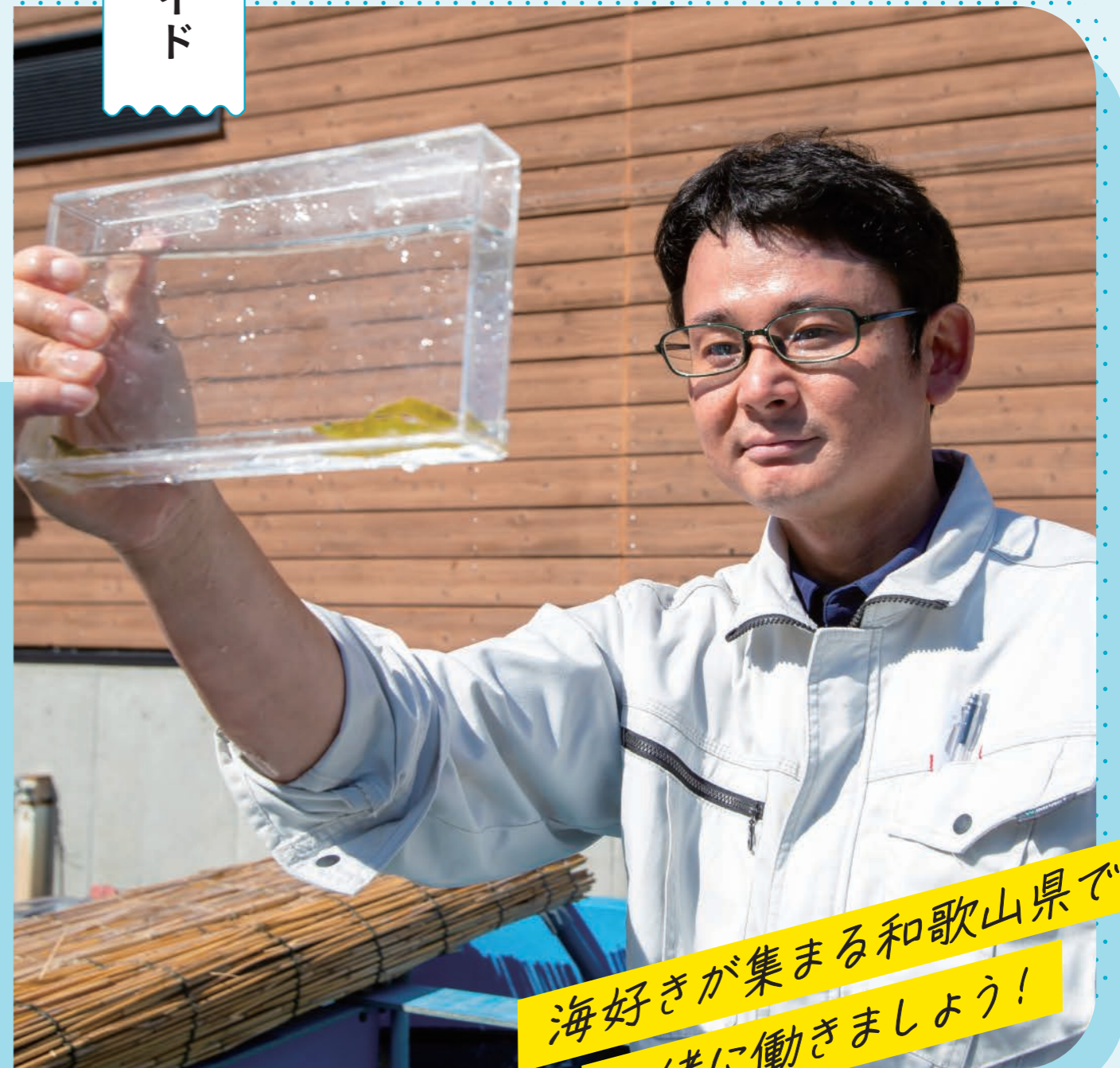


和歌山県職員の職種ガイド

和歌山が最高!だと子どもたちが思う未来を!

#水産職

あなたが和歌山県の未来をつくり、和歌山県はあなたの未来をささえる。



海好きが集まる和歌山県で一緒に働きましょう!

Wakayama is the best

水産職

和歌山県では時代の変化に対応できる収益性の高い水産業の実現を目指して、漁業者などの経営構造改革や、収入源の複合化など経営の多角化を進めるとともに、水産資源を持続的に活用するための資源管理対策を推進しており、水産技術職員は、「水産行政」「普及業務」「試験研究」の業務を通してこれらの課題に取り組んでいます。まず、本庁では、水産局の下に水産振興課と資源管理課があり、担い手育成、販路開拓、漁場整備、栽培漁業、漁協指導等の水産振興に係る業務と、水産資源の保護・管理、漁業調整、漁業取締等の資源管理に係る業務を行っています。次に海草、有田、日高、西牟婁、東牟婁の各沿海振興局では水産業普及指導員を2名ずつ配置して、現場で直接、漁業者などに漁業技術の普及や漁業の経営改善について指導を行っています。また、水産試験場では、漁況海況の解析、増養殖技術の開発など、それぞれの分野の課題に取り組み、水産業を支えるための総合的な研究を実施しています。

キャリアパスモデル

※当モデルはあくまで一例です

主な役割
20代 技師 副主査 公務員としての基本的な知識の習得、担当業務の確実な実行、収集した知識の担当業務への活用、課題解決への提案など
30代 主査 担当業務に対する効率化・改善、適正な進行管理、後輩職員への指導
40代 主任 班長 班・グループ内の担当業務に対する効率化・改善、適正な進行管理、マネジメント
50代 課長等 課の目標・成果の設定・政策決定、課員の評価・人材育成、職場環境づくり



「沿岸漁業の再生を目指して」

水産行政の業務の一つとして、令和5年度から開始した「沿岸漁業の再生を目指した漁場整備事業」を紹介します。沿岸漁業の生産基盤となる藻場は、ヒジキなど直接漁業の対象となるだけでなく、アワビ類等の餌料や水産生物の生息場所として重要です。和歌山県の藻場は、黒潮の影響を大きく受けており、近年は海水温の上昇などにより大型海藻が消失する磯焼けが顕著となっています。そこで、当事業では、令和5年度からの2年間で人工衛星画像解析により藻場の現状を把握するとともに、地域ごとに藻場の減少要因を特定するための水温や栄養塩などの環境調査を実施します。調査結果を基に有識者を交えた検討会を開催し、効果的な漁場整備手法を検討・展開していくことで、藻場回復をはじめとした沿岸漁業の再生を目指します。



水産振興課

大橋 慎平 副主査

令和2年度採用

1日の流れ

8:30	9:30	12:00	13:00	15:00	18:15
出勤	手続きなどの事務処理	昼休憩	会議	資料作成など	退勤
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞チェック、メール確認、業務内容の整理 ・補助金申請に係る手続きなど 			<ul style="list-style-type: none"> ・計画に関する進捗報告など 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務に関する情報収集、資料作成など ・上司への報告等 ・残務処理 	



水産試験場

武田 崇史 主査 研究員

平成23年度採用

1日の流れ

9:00	12:00	13:00	16:00	18:00
出勤	昼休憩	現場作業	事務処理など	退勤
<ul style="list-style-type: none"> ・初期餌料(ワムシ等)の培養 ・供試魚介類への給餌・メールチェック 		<ul style="list-style-type: none"> ・供試魚介類の尾数測定等の作業 ・供試魚介類への給餌 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料購入等の事務処理 ・報告書や論文などの作成 	

WORK 担当した仕事の内容・魅力

私の担当業務のひとつに栽培漁業の推進というものがあります。県では、生残率の低い卵～稚魚期を人の手で育て、ある程度の大きさになってから放流することで、漁獲量の増加を図る「栽培漁業」を推進しています。取組は概ね5年に1回策定される「栽培漁業基本計画」に基づいて実施されており、私は最新の「第8次和歌山県栽培漁業基本計画」の策定に携わりました。本計画では、新しくキジハタ(アコウ)を対象種に追加するなど、これまでに行われていなかった取組も組み込まれています。本計画の策定にあたっては、漁業者への要望調査、種苗生産機関との調整、関係機関への意見聴取などが必要で、意見調整に苦労したこともありましたが、何とか計画を形にすることができました。これから、自分が策定に携わった計画に基づき栽培漁業の事業が進められていくと考えると、不安もありますが、自分の仕事が県の水産行政に反映されていることを実感でき、大きなやりがいとなっています。



メッセージ

私は前職があり、仕事の傍らに公務員試験の勉強をしたので、当時は睡眠時間も短く、体力的・精神的にかなりしんどかったことを覚えています。でも、入庁したら県民の方からは1日目から水産のエキスパートとしてみなされますので、そこでしっかり勉強しておくことは後の自分を助けることにもなります。そのため、試験合格のためだけではなく、将来のため、広く水産のことを勉強しておくことをお勧めします。

LIFE 私のわかやまライフ

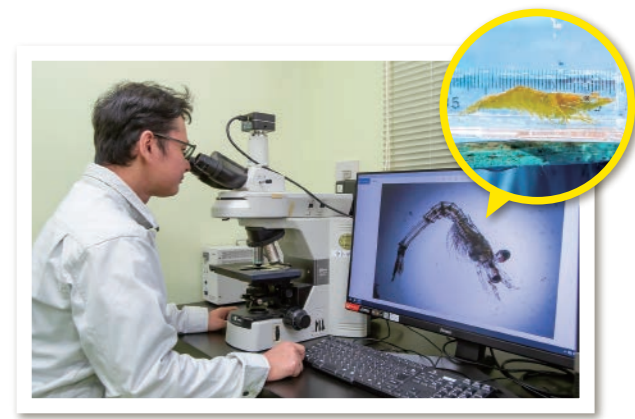
私は既婚で子どもが二人いますので、業務時間の調整がしやすい現在の職場環境は大変有難く、平日の夜は家事の手伝いができる日も少なくありません。また、休日出勤もほとんどありませんので、休日はほとんど家族との時間に充てることができています。

WORK 担当した仕事の内容・魅力

和歌山県の水産業にとって重要種であるシロアマダイ、スマ、クマエビ(アジアカエビ)、モクズガニなどの種苗の安定生産や量産を目標とする研究を行っています。これらの種は初期(ふ化から変態完了まで)の飼育が非常に難しく、水槽内で順調に育っていると思っていても、翌日に全滅することがごく普通にあります。初期の魚類および甲殻類は免疫機能が低いことから病原菌に弱く、また、発育に伴って形態や生理機能が大きく変化し、飼育に適した環境が変遷することが、この時期の飼育の難しさの主たる要因だと考えています。研究は試行錯誤の連続で、肉体的、精神的に辛いこともありますが、全国的にみても高いレベルのことに挑戦しているので、目標をクリアしたときには達成感が得られます。研究成果は養殖や種苗放流の事業現場で活用され、漁業者さんや技術者さんが喜んでくれているのを近くで感じることができるので、この仕事には魅力ややりがいがあります。

LIFE 私のわかやまライフ

幼少期から生物に興味があり、中でも魚類が好きで、「飼育(海・淡水魚)」、「海釣り」、「調理(魚介類)」などを趣味としています。現在の職務は魚介類の飼育・研究が主であるので、週末にきっちり休暇を取るといった訳にはいかないのですが、時間と体力があればストレス発散に釣りをして、釣った魚を調理するなどしています。



メッセージ

私は学生時代にクロマグロ、クエなどの種苗生産に関する研究を行っており、当時、携わっていた研究にやりがいや面白さを感じていました。同様の研究を仕事にしたいと考え、幼いころから様々な縁があった和歌山県を受験し、就職しました。和歌山県に就職した場合、現役の間に水産業に関係した行政職と研究職をともに経験することになりますが、就職に際して私と同じような学生さんは受験を検討して頂ければと思います。